



発行日2006年 3月 27日 第20号

発行 札幌歯科医師会口腔医療センター

〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目

TEL(011)512-9497 FAX(011)511-2272

<http://www.dnet.or.jp/center>

E-mail omc-s@dnet.or.jp

発行人 菊田 浩一 発行責任者 鶴岡 一彦



皆さんこんにちは

口腔医療センター副所長 宮田 研

この「ぱるす」は皆さんと一緒に“医療・保健・福祉”を同じテーブルについて考えていくことを目的として平成10年6月に創刊され、今回で20号になります。

これまで多くの方々が原稿や作品を寄せてくださいました。

そのひとつひとつは直接医療なり福祉を語るような難しいものではなく、優しくほのぼのとして私たちの気持ちを安らげてくれるものでした。

しかし、創刊号から最新号まで目を通してみると、“福祉医療はこうでなければなあ”なんて感じさせてくれるようになってきたと思います。

これが私たち口腔医療センター所員・スタッフの“ビタミン”になってきたことはいまでもありません。

ありがとうございました。

これから先、医療を取り巻く環境はますます厳しいものになってきます。

ここ口腔医療センターは行政の財政補助によってこそ成り立っておりますが、それまでも減額されつつあります。

そのような劣悪な状況にあっても、安全・快適な障がい者歯科診療を皆さんに供給していくことが私たちの責務であると思います。

そうです、私たちものんびりかまえているわけにはいかないのです！！

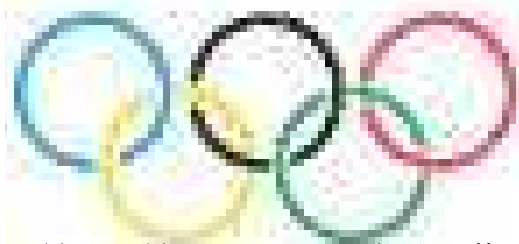
……この件に関しては次号で具体的なお話があると思います……

そんな訳で、これからもこの「ぱるす」を通して皆さんからの“ビタミン”をもっともっただきたいと思います。

これからも「ぱるす」をよろしく願います。どんどんご投稿おねがいしま〜ス！！



「五輪四方山話」



札幌歯科医師会 事務局長 和泉 利哉

最後の最後に、トリノの女神が荒川静香にキスをして盛り上がったトリノオリンピックでしたが、ここでは四方山話のひとつとして五輪のマークについてご紹介することにします。

五輪のマークは、世界五大陸(ヨーロッパ、アジア、アフリカ、オセアニア、アメリカ)を現しているということはなんとなく知っていましたが、それ以外にもちゃんと意味があることを、みなさんご存知でしたか？

物の本によれば、世界五大陸以外に、五つの自然現象(火・水・木の緑、土の黒、砂の黄色)とスポーツの5大鉄則(情熱・水分・体力・技術・栄養)を原色5色と5つの重なり合う輪で表現し、その輪は平和への発展を願うものなんだそうです。実に深い意味があるもので、これを考案したクーベルタン男爵(近代オリンピックの産みの親)の想いが、近代オリンピック復活から110年経った今にも脈々と受け継がれている気がします。

平成10年(1998年)6月に産声を上げたセンター機関誌『ぱるす』も20号目の節目を迎えました。『ぱるす』にも発刊当時から変わらない理念と、編集に携わる人々の情熱、そしてなにより『ぱるす』を楽しみに読んでくださる皆さま方の暖かい気持ちによってあゆみを進めて参りました。

口腔医療センターホームページをご覧ください。そこにはこう書かれています。

『「ぱるす=PULSE」は、鼓動・活気・波動の意味だが、関わり合う一人一人の波動(思い・願い・熱意)が共鳴し、大きな「うねり=WAVE」となるように願いが込められている』と……。どこか五輪のマークの意味合いに通じるところがあるとは思いませんか？ 私たちはこの初心に戻って、今後も皆さまとの心の架け橋になるような機関誌『ぱるす』を作り続けていきたいと思っております。創刊以来、ご愛読いただきまして心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

追記 話はオリンピックに戻りますが、ミーハーな私はご多分に漏れず女子カーリングに“はまりまくり”、札幌職員カーリング同好会の発足を画策しております。悪しからず(笑)。



啓明中学校「職業体験学習」



今年も12月1日(木) 札幌市立啓明中学校より「働くことについて考えよう」という目的で男子2名女子1名計3名の3年生が来所見学しました。歯医者さんの裏側に興味津々です！

今年で2年目の職業体験学習です。
第1・2診療室でそれぞれ先生や患者さんと楽しく診療に参加してもらいました。
お礼状と感想文が届きましたので、紹介いたします。



「職業体験学習を終えて」の感想文

小笠原 有佳子さん

職業体験では、とてもたくさんのことを学ぶことができました。先生、衛生士さんはとても優しく、患者さんとの会話はみなさん笑顔で、すごく楽しい病院だなあと思いました。障がいのある人との握手はすごい感動しました。1日だけしか体験ができなくてとても残念です。私もいつか医療の仕事ができるよう、頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。



10円玉の研磨
歯を磨くように丁寧に

篠原 一平さん

先日はお忙しいなかありがとうございました。私はセンターに行くまで「障害のある人と話せるだろうか」「うまくやっていけるだろうか」という不安がありました。しかしざ訪問してみるとそんな不安はありませんでした。自分の中の障害のある人と病院にいる障害のある人が全然違ったのです。病院にいた障害のある人はみなさん健常者の人たちと同じように普通に会話し普通に笑っていました。今ではこの体験をとおし、障害のある人の考えが180度かわりました。このようなすばらしい体験をさせてくれました病院のみなさん本当にありがとうございました。

鈴木 歩さん

先日は、とてもお忙しい仲、職業体験学習を引き受けていただきありがとうございました。この職業体験学習で、札幌歯科医師会口腔医療センターで体験させていただいて、本当によかったと思っています。歯医者さんの裏側を見せていただいたり、歯医者さんの道具を使わせてもらったり、とても貴重な体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。



歯磨き指導中！きびしい？



下村 和哉さん

自分が札幌口腔医療センターに通い始めて早20年がたとうとしています。
 最初は、今は、病院移動した小口先生でした。
 以前は、札幌市交通局職員の名前を借りて受けていました。
 現在は、JR北海道バスの札夕線乗務員の名前を借りて受けています。
 何故かという治療の際自分の名前では自信が持てないからです。
 今後も新しい乗務員さんの名前を沢山出して行こうと考えています。
 早く自分の名前で受診出来るようにがんばろうと思います。 和哉



検診前の運行前点検中

高橋 亜由美さんのお母さん 高橋 静子さん

こんにちは。私は高橋 亜由美の母です。



高橋 亜由美ちゃん

娘は雨竜高等養護学校を卒業してノビロ青年の家フレンドショップにお世話になって4月で13年目になります。ついこないだまでメソメソと泣いていた娘が6月で31歳になります。月日がたつのは早いものですね。普通ならお嫁に行く年齢なのでしょうね・・・

7歳下の弟がいますが弟の事が大大大好きです。母親の様な感覚で見ているように感じます。言葉も私と同じ様な事を言いますが弟にしたらかチンと来る時もあり怒られるとションボリ・・・でも大好きです。

現在お世話になっているフレンドショップでは小物・マスコット・サムエ・フキン(刺し子)など他を作っています。

針など持った事などない娘も先生、沢山のお友達に助けられ休む事もなく毎日通園しています。

皆さんも同じ考えかと思いますが、1日でも長く一緒にいられる様体に気を付けてガンバリたいと思います。



亜由美ちゃん手作りの
かわいらしいマスコットたち



加那子のはじめて白い紙に人の顔を描いたのは、保育所に通っていた頃保育士さんが一緒に付添ってだったと思います。が、それは「手をそえてもらってまるを描き人の顔になっていた」というのが正しいのかな・・・それ以前は母子通園施設でクレヨンや手指に絵の具をつけて点画というのか本人は感覚を楽しんでいた様子で、描き出される点や線にはあまり興味を持っていない感じでした。

小学校4年生の頃、二度目の東京ディズニーランドに家族旅行したあとすっかりパレードやアトラクションが気に入って何枚も何枚もその様子を色鉛筆で描くようになりました。それはもう、スケッチブックに次から次へ、何冊も何冊にもなりました。

とても楽しそうに一生懸命に集中して色を塗って描く様子に周りで見ている私たちもうれしくなり、いつでも好きな時に描けるように色鉛筆と紙をきらさないように心がけるようになりました。

その後学校でもその様子を評価して下さり、小・中・高と絵を描き続けました。中学の職場体験学習では地元白老在住の漫画家さん宅を訪問し、一緒に絵を描かせてもらいました。伊達高等養護学校では美術の時間に仕上げた作品を北海道「道民福祉の日」のポスター募集に応募したところ最優秀作品に選ばれ、びっくりしたこともありました。

銭函の小児保健センター脳外科医だった高橋先生主催の「いけまぜアトリエ」の活動に参加するようになったのもこの頃です。

高校では二週に一度帰省していたものの、なれない寮生活になり広汎性発達障害で仲間と一緒に過ごすのが苦手な加那子は四人部屋の自分の机で空き時間があるとひたすらスケッチブックにむかっていた様です。つらいことも楽しいことも絵にぶつけて表現し、好きなCDを聴きながら「マイクを持って大きく口を開け歌い踊る人の絵」が大半になっていきました。その頃のスケッチブックをみると、若いエネルギーが全て吐き出されとても太い線に縁どられ何度も塗り込められるスタイルに変化します。

描かれたひとりひとりに躍動感や存在感が増し、加那子の独特の絵が出来上がっていったように思います。

学校を卒業してからも、作業所から帰り時間があると絵を描いていました。気がつくと加那子のライフスタイルの中で「絵を描く」ということがなくてはならない生活の一部に組み込まれているようでした。

ところが3年前に作業所での不適応をきっかけに精神状態が不安定になり生活が一転、絵を描くのもままならない状況になってしまいました。そんな折、昨年6月に加那子を心配して下さった中学の職場体験でお世話になった漫画家さんのはからいで今まで描いた絵の個展をしらおい創造空間「蔵」で開催することになりました。夢のような出来事でした。来場された皆さんからたくさん励ましや元気を頂きました。

加那子の絵を見て「元気になる」「勇気をもらった」「色がきれい」「歌や音楽が聞こえてきそう」「感動した」・・・など様々な感想を頂きびっくりするやううれしいやらの充実した一週間でした。

この絵はがきはその時の作品の中から作製したものの一部です。現在加那子は精神科で通院加療しながら自宅で生活していますが、時折自分の絵を並べて眺めたり、スケッチブックを広げたりするものの色鉛筆を握って絵を描く姿はほとんどみられません。

この度、いつもお世話になっている口腔医療センターのスタッフの皆さんに加那子の絵を見ていただく機会がありそのことを取り上げていただいたり、またこのようなつたない文章を寄せるきっかけをいただきましたことに加那子ともども大変元気づけられ、励まされ感謝しています。ありがとうございました。また、加那子の絵を見てくださいね！！



加那子ちゃん

介護・口腔ケアセミナー報告



口腔医療センター企画研修部 部長 中澤 潤

このセミナーは口腔医療センターが主催し、在宅で介護にあたる家族の方やヘルパーさんや看護師さん、あるいは訪問診療に携わる札幌歯科医師会会員、衛生士さんなど様々な職種を対象として平成10年にスタートしました。

2月10日の開催で今年度は第8回目、通算で26回目となりました。

介護・口腔ケアセミナーの講演内容は受講対象によっていろいろなタイプがあります（「ぱるす」のバックナンバーをご覧ください）。中には介護に直接携わるヘルパーさんを対象としたのもあり、実はわたくし、「ぱるす」編集長の他に、衛生士長の藤原さんと一座を組んで各区のヘルパーセンターを訪れ、口腔ケアの重要性をユーモア交じり(?)に説いてまわるといこともやっています。本年度は手稲区、豊平区、北区、東区、厚別区のヘルパーセンターにお邪魔し、全部で約560名のヘルパーさんの参加がありました。

これでほとんどの区をまわったこととなります。最初はぎこちなかったしゃべりもだんだん慣れてまいりました。講演後のアンケートに「為になった。」とあると苦勞が報われる気がします。

最近は「楽しかった。」というのが増えてきました。

実は担当している私達も結構楽しんでるのです。

「どっ」とうけ、会場がひとつになった時は快感です。暖かく迎えてくださった皆様ほんとうにありがとうございました。当初は口腔ケアの重要性をアピールするのがメインでしたが、リハビリに対する考えも必要になってきました。

時代の流れを採り入れながら常に充実した内容にしたいと考えておりますので、これからも「介護・口腔ケアセミナー」をよろしくお願いします。

また興味のある方は口腔医療センターまでお問い合わせください。



口腔医療センター 歯科衛生士長 藤原 咲子



昨年9月より月1回の割合で、中澤部長の講演後に「嚥下体操」を実施させて頂きました。多数のヘルパーさん達が寒い夜に、お疲れのところを熱心に耳を傾けて下さったことに対して感謝の気持ちでいっぱいです。

「嚥下体操」は『目をパッチリ覚まし、良く咬んで、唾液をいっぱい出して、美味しく食べ、スムーズに飲み込みましょう!!』という目的で実施して頂くのですが、実はコレ『スッキリした目元、明るく若々しい表情、ツヤツヤお肌』作りにも共通しているんです。美容と健康、一石二鳥です。唾液腺への刺激、頬のマッサージ等でより若々しく、よりおいしく食べましょう。

『ビショぬれ』から“笑顔”まで

口腔医療センター障害者診療部 副主任歯科衛生士 横濱 峰二子

この度、口腔医療センター障害者診療部を平成18年3月末をもちまして、退職させて頂くことになりました。

今、開設当初のことを思い返して見ますれば、2つの診療室でそれぞれ障害者歯科診療の経験のない担当歯科衛生士2人と、3～4人の歯科医師とで、安全に歯科治療を受けてもらうために、ひとりの患者さんを囲み・身体を抑え・・・治療をする側も、受ける側も、共に下着まで汗で“ビショビショ”になりながら診療をおこなっておりました。

そのような状況の中で、「経験から抱く不安や恐怖心など、何らかの理由で歯科診療を受け入れられない」患者さんに対して、「自ら診療室に入り、抑制具などから解放され、なんとか歯科治療を受けてほしい」との思いから、歯科診療時の対応法の一つである行動変容法“10カウント法”や“TEACCH法”などを導入し、いろいろと試行錯誤をくり返してまいりました。

北海道という地域性の豪雪にもかかわらず、行動変容法を受けるために、十数名の患者さんが遠方から来院して下さりました。

「出来た」と自信をみなぎらせ、笑顔で診療室から出でいく子どもの姿を、お母さんと見つち、手をたたいて、喜びを分かち合ったりもいたしました。

しかし、万事が万事うまくいく訳ではありません。コミュニケーションのとり方がわからず、迷っていた頃のことです。

当時、北海道大学歯学部の小島寛先生より、「診療中に患者さんとのコミュニケーションを図りながら、望ましい関係を構築していく方法」について、実践を通し先生独自の方法を、多々教わることができました。

これまで、私が一番大切にしてきたことは、“患者さんをよく観察し”“患者さんから発せられる表情・言葉を聞き”“『心と心のふれ合い』の中から生まれる信頼を得る”これらを真情に勤めてまいりました。

今後、“若い歯科衛生士が、それぞれの新しい感覚で、地域の障がいのある方々に心ある医療を提供できる口腔医療センターの構築”をされますよう期待しております。

最後に、24年ものながきに渡り、ささえて下さった患者さん・保護者の方々・施設職員の方々・ご指導くださった歯科医師会・各大学の諸先生方・職員の方々に心より、お礼申し上げます。



橋元里佳さんと横濱さん

横濱さんへ

私と横濱さんと知り合ったのは早いもので、かれこれ20年くらい前。虫歯の治療に口腔医療センターに行ったときの事でした。

歯の磨き方から歯垢おとしまでずいぶんお世話になりました。横濱さんが退職されると聞いてビックリしました。退職されて お母様のご面倒を見られるそうですが、どうぞお身体をお大切にしてください。

そしてぜひ私の家(自立ホーム)にもいらして下さい。

橋元 里佳

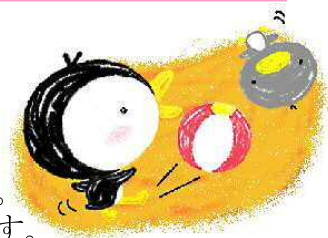
編集後記

おかげさまで20号！

はやいもので皆様のおかげで「ぱるす」は今回で第20号です。

正直ここまで続くことができたのはオドロキです。『継続はチカラなり』です。

これからも「ぱるす」に皆様のチカラを分けてください。よろしくお祈りします。



口腔医療センター 企画研修部 部長 中澤 潤



笑顔は人の気持ちを和らげ、人間関係を円滑にする大きな役割を持っています。
「笑う門には福来る」と言われますが、健康のためにも「笑い」は効果があるようですよ。
笑うしぐさというのは、人の心を和ませるばかりか自分自身の体にとっても沢山の
良い働きが隠されています。
笑顔は、人間だけが持っている最高の表情です。
さあ、この春は大いに笑って、体の中から健康になりましょう！！

